

「良書ご案内」

書籍名	13才からの地政学	著者名	田中 孝幸
出版社名	東洋経済新報社	発行年月	2022年3月

地政学とは、地理的な条件に着目して、軍事や外交といった国家戦略、国同士の関係を分析、考察する学問です。いま起きている出来事を地理的な側面から読み解いていくのが地政学です。

話は物語調で展開していきます。高校1年生の大樹と中学1年生の妹の杏は左目に眼帯をした大男(あだ名はカイゾク)に出会います。カイゾクから7日間のレッスンを受け、最終日のテストに合格すればアンティークな地球儀を貰える約束をします。そのレッスンの内容は…

「物も情報も海を通る」

地球の7割が海、3割が陸地です。世界貿易の9割が海を通っています。特に日本は99%が船による貿易に依存しています。戦争や災害によってホルムズ海峡(エネルギー供給の大動脈:イラン・サウジアラビア)、マラッカ海峡(マレー半島・スマトラ島)、バシー海峡(台湾・フィリピン)、台湾海峡が通行できなくなると食料、石油等の供給がなくなり日本の大混乱は必定です。

インターネットのデータのやり取りは99%が海底ケーブルです。世界で1番多くの海底ケーブルを張り巡らせているのはアメリカ、2位はイギリスです。

アメリカが超大国といわれるのは、世界の海と海底ケーブルを支配しているからなのです。

「なぜ中国は南シナ海を欲しがるか？」

核抑止力によって世界の安定は、かろうじて保たれています。核抑止力とは、核報復兵器を保有することによって、国家間の戦争を思いとどまらせる力です。つまり核を持つ事で、相手国に核攻撃を思いとどまらせる力があると世界の指導者は考えています。

では、核ミサイルはどこにあるのか？ 実は海底に隠しています。

海底にミサイルを隠すためには、①長時間潜っているための原子力潜水艦があること。

②潜水艦を隠すために、自国の縄張りで深い海があること。

ロシアはオホーツク海に3000m級の海がありますが、中国にはありません。

地政学は面白く、視点が変われば世界の出来事はまったく違って見えてきます。

ニュースに一段と興味が湧いてくることは間違いないでしょう。

岩 城

暑い8月が始まった!スポーツの祭典、パリオリンピック。毎日熱戦が繰り広げられ、寝不足という方も多いのでは?今回は前回の東京大会がコロナのせいで1年遅れ、アレもう?と思いましたが?スタジアム外での開催に始まった開会式。聖火はサッカー選手、ジダン(仏)から全仏オープンで14度制覇したスペインのテニス選手、ナダルへ。これまた珍しい燃料を使用しない聖火台へと火は灯される。シンプルに美しい★

歴史と芸術が似合う街パリ。エッフェル塔特設ステージで、あの有名なエディット・ピアフの愛の賛歌をセリーヌ・ドムイオンが歌い、10代選手が華麗に飛び跳ねたスケートボード男女ストリートの会場はコンコルド広場、ヴェルサイユ宮殿では馬術が行われる。毎朝毎夜、特派員たちが、街の表情を教えてくれ、まさにパリにいるかのよう。どこを切り取っても・・・は決まり文句だが、そんなエッフェル塔がかつてはパリの恥と?

フランス革命から100年後の、1889年5月6日に第4回パリ万博は開催された。その時に披露されたのが鉄の魔術師と言われた、エッフェルの鉄塔。石造りが全盛期の時代、芸術家はこぞって抗議!足場か、工場の巨大な煙突か?と騒いだ。エッフェルはセーヌ川近くのため工事中、河の浸水に見舞われるも、ボルドーのエッフェル鉄道高架橋を参考に、圧縮空気を使った工法で地下25m迄基礎を掘り、難を免れた。苦難は続く、賃金UPのストライキが起こり、高所作業への不満が爆発、140人必要人員に対し27人しか集まらない。そこでエッフェルの出した案は?5セントUP/ボーナス支給/防寒着を出し決着!無事1889年3月31日落成式に間に合う。あのNYの自由の女神にも彼の鉄製の支柱が採用されているとか。奥が深いぞ、エッフェル!実は第一次・第二次世界大戦でもエッフェル塔は活躍した話はまた。数々の苦難を乗り越え建つ鉄塔、そしてアスリートたちの美技の数々★酔いしれるには充分。

発行所:株式会社ライフデザイン研究所

所在地:〒541-0048 大阪市中央区瓦町3-4-87サピール2F Tel 06-4708-6844 Fax 06-4708-7067 編集人 伊藤

